

公共交通再編に向けた基本方針（案）



課題

①入間市民の日常生活の支援に向けた移動手段の確保

- 市民の日常的な利用施設である、公共施設や商業施設、福祉施設等の交流施設へのアクセス性確保
- 入間市民の移動手段確保に向けた公共交通空白地域の解消

②公共交通の利便性確保

- 利用者ニーズに対応した公共交通の運行経路・本数などのサービス水準の設定

③公共交通の維持・改善

- 厳しい財政状況における公共交通サービスにおける行政経費の削減
- 公共交通の利用促進、効率的な運行計画による公共交通の収益性向上
- 持続可能な公共交通に向けた市民や交通事業者、近隣自治体等との協働体制による運営のしくみづくり



公共交通のコンセプト

1. バス停までの移動手段

- 玄関までのサービスは、「福祉」と捉える（棲み分けを明確に）
- ただし、障がい者、高齢者への配慮はしっかりと（バリアフリー等）

2. 交通空白地への支援と市民の移動手段の確保

- 交通空白地への支援は、公共交通の第一義
- 多くの人が利用する公共施設や商業・医療施設等を結ぶ
- まちづくりとの連携・整合

3. 利便性の確保

- 既存バス路線との連携・共存
- ハード整備（バス停、車両等）とソフト整備（ルート、ダイヤ等）の両面から

4. 公共サービスとして維持・存続

- 採算性を確保することが目標ではなく、維持・存続できるサービスを提供
- 利用促進の方策や受益者負担も考慮



基本方針1：市民が利用しやすい公共交通の構築

運行計画の見直しやきめ細やかなサービスの実施により市民の誰もが利用しやすく、利便性の高い公共交通を構築する。

基本方針2：市民、企業、交通事業者、行政の協働による持続可能な仕組みづくり

公共交通を『守り』『育てる』ために、各々が協力し合う体制づくりや市民の意識改革、地域企業の積極的な関与を促す仕組み作りを行う。



公共交通再編に向けた当面の目標（案）

目標1：「ていーろーど」の利便性の向上により、市民生活の「移動」を支援する

市民アンケート調査結果より、バス運行に関して不満を感じている方が多く、運行時間帯や運行本数に関する改善の要望が多くみられた。**適切な運行体系を構築することにより**、市民生活の移動における支援を行う。

また、アンケート調査結果では、「自家用車等の交通手段があるので、今後も利用しない」等の意見が多くみられたが、今後『意識啓発の取り組み』を進めることで、自家用車から公共交通への転換を促す。

目標2：「ていーろーど」の運行を長期的に維持する

市民アンケート調査においても、自動車が運転できなくなった時を不安視する声は多く、また、今後充実させるべき移動手段として、「ていーろーど」が最も多く占めており、長期的な「ていーろーど」の運行維持が望まれる。

しかし、今後さらに緊縮財政化が進む中で、入間市単独での運行経費の補填ではなく、**料金体系の見直しや、地域企業や近隣市町村との連携を図る**ことで、運行面、財政面の両面で、「ていーろーど」の長期的な運行を維持する方法を模索する。

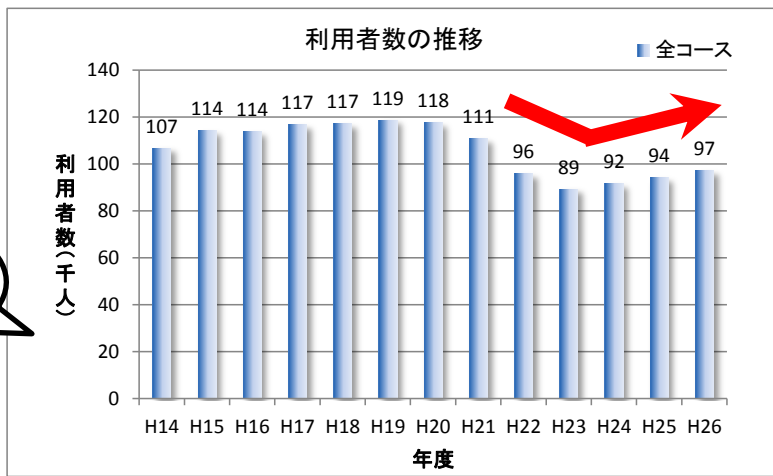


ていーろーどの利用状況

利用者数の状況

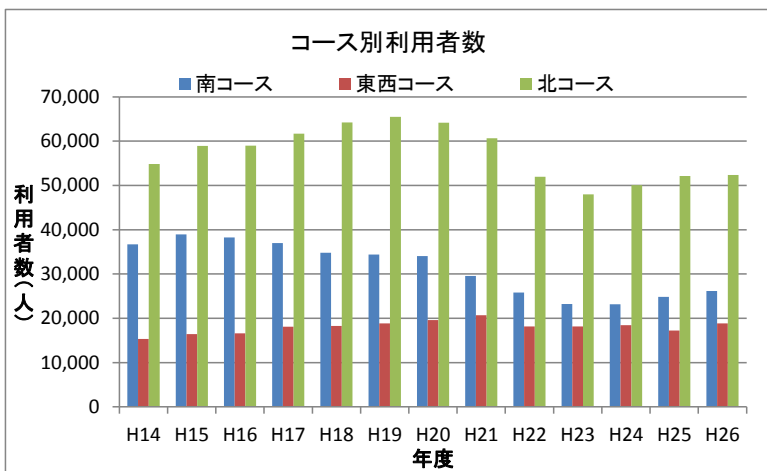
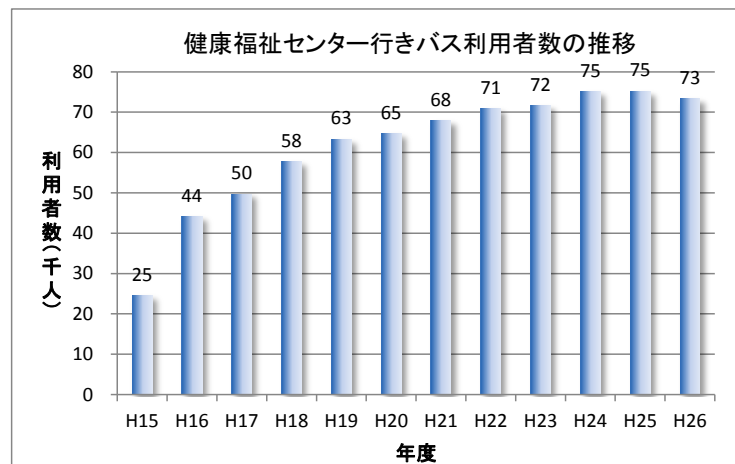
- 利用者数は、平成19年度を境に減少に転じたが、平成23年度以降回復傾向にある。
- コース別で、利用者数に偏りが生じている。

ていーろーど



H22.9に
1便減便

健康福祉センター行きバス



出典: 入間市市民生活課データ

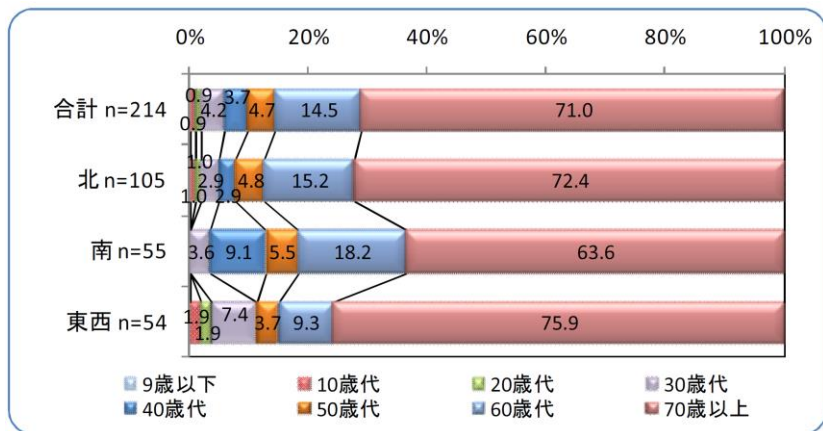


ていーろーどの利用状況

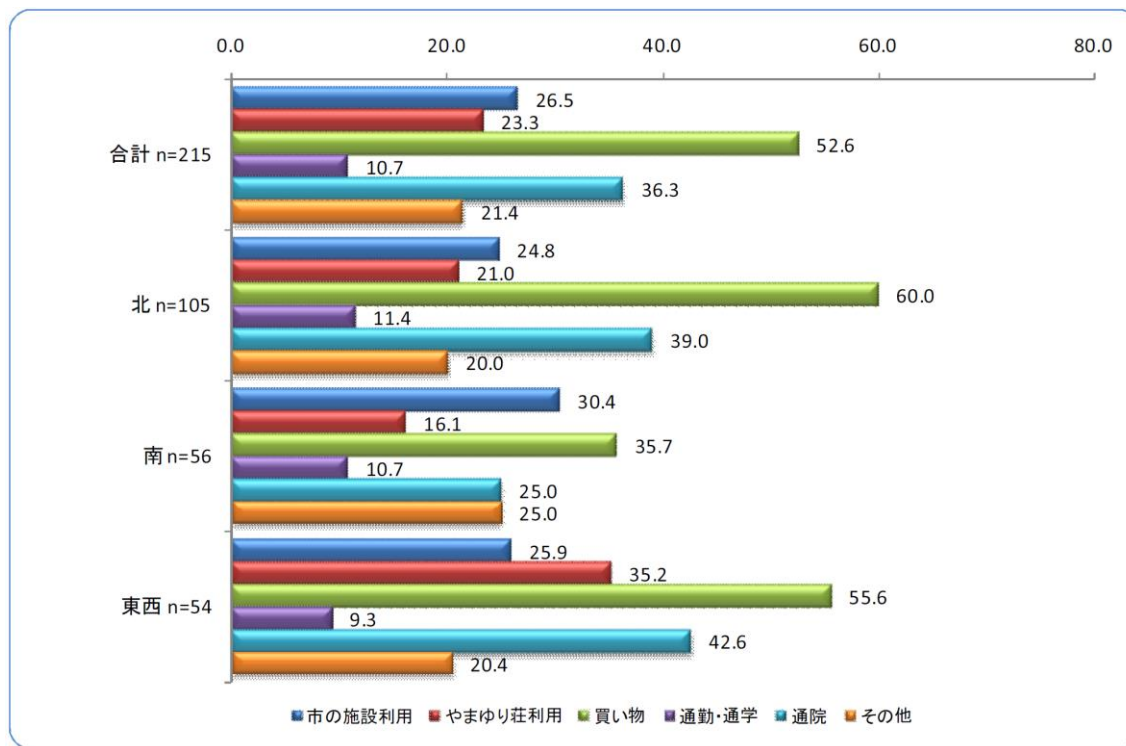
利用者年代と利用目的

- 利用者の約7割が70歳以上の利用者となっている。（特別乗車証での利用）
- 利用目的は、半数以上が「買い物」となっており、次いで「通院」となっている。

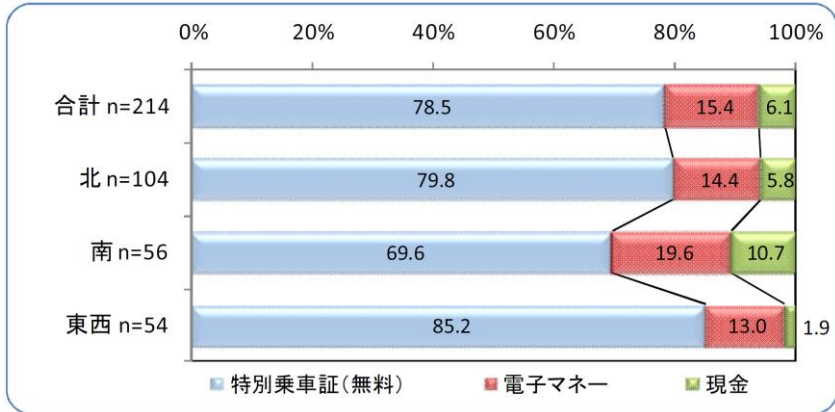
利用者年代



利用目的



利用区分



出典:「入間市市内循環バス「ていーろーど」乗降者アンケート調査2011 西武バス(株)

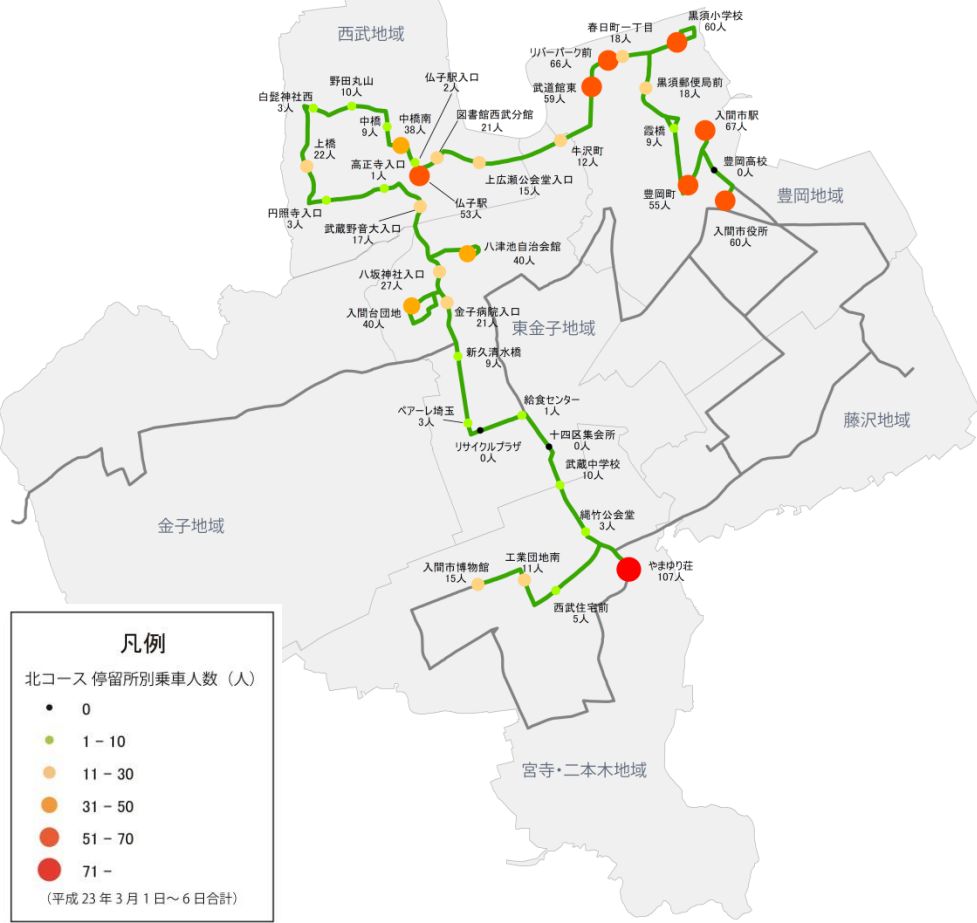


ていーろーどの利用状況

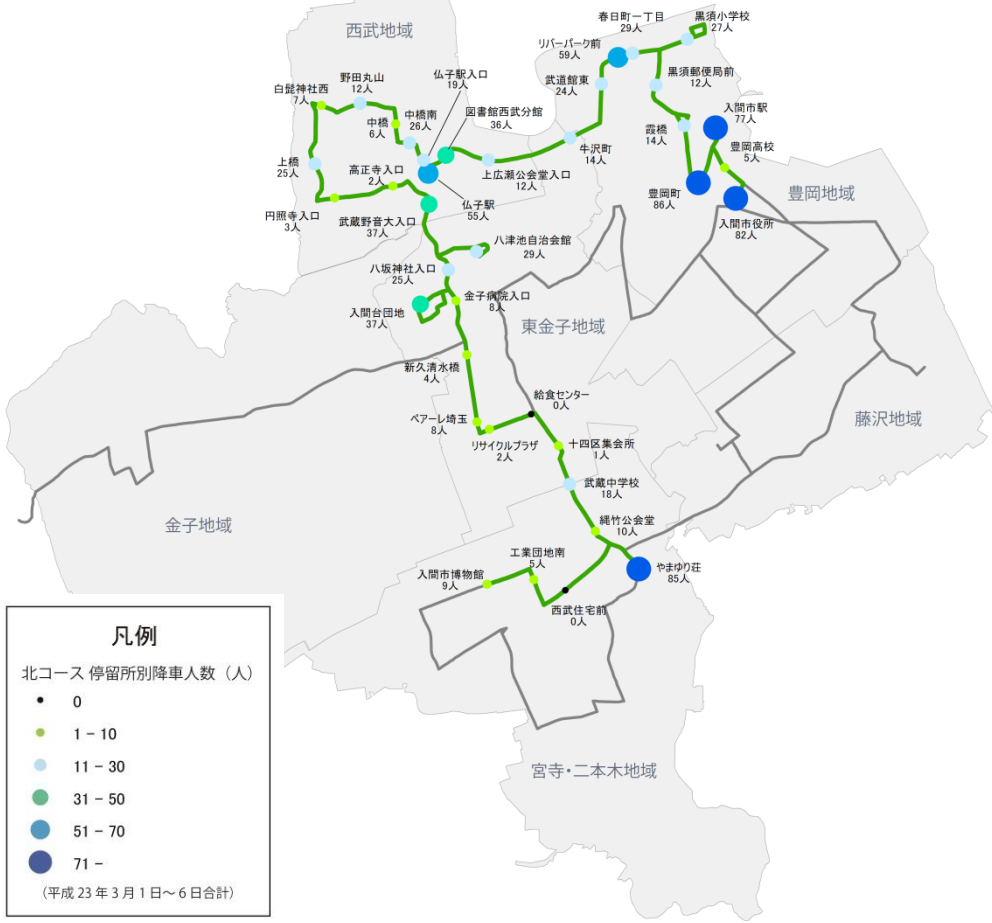
北コース

- ・ 公共施設（駅、市役所、やまゆり荘）での利用が多い。
- ・ 豊岡地域北部（黒須小学校、リバーパーク前）の利用も多い。

停留所別乗車数



停留所別降車数



データ出典:「入間市市内循環バス「ていーろーど」乗降者アンケート調査2011 西武バス(株)



ていーろーどにおける現状の課題

視点1 市民の日常生活の移動手段

- ✓ 人が多く住んでいる場所においても、交通空白地域が残っている。
- ✓ コース毎の利用状況に偏りが大きく、また、利用が少ない区間も多く、移動の実態と合っていない部分もある。
- ✓ 西武バスとの重複区間がある。（乗客の取り合い？）

視点2 公共交通の利便性

- ✓ いずれのコースも、初便が入間市駅発となっているほか、7時～18時台での運行であるため、通勤・通学には利用しづらい。
- ✓ 各コースとも路線延長が長く、起終点間の所要時間は1時間以上となっている。また、渋滞による遅延も発生している。
- ✓ 車椅子が利用できる停留所が限定されている。

視点3 公共交通の維持

- ✓ 高齢化の進行に伴い、今後、さらに市の負担が増えることが予想される。（税収の増加は難しい）



ていーろーど見直しにおける実施方針（案）

目標1：「ていーろーど」の利便性の向上により、市民生活の「移動」を支援する

◆ハード整備

手法	実施方針	具体のメニュー	時期
運行経路の見直し	利用者ニーズに対応した運行経路の設定	利用目的、利用者状況に応じた運行経路の設定	短期 (H28着手)
運行本数の見直し	利用者ニーズに対応した運行本数の設定	上記、経路変更に応じた増便・減便	短期 (H28着手)
運行ダイヤの見直し	利用者ニーズに対応した運行ダイヤの設定	ダイヤの変更(利用者ニーズに合わせて)	短期 (H28着手)
新型車両の導入	利用者が比較的少ないエリアの利便性を確保	小型車両(ワゴン車)の導入により、きめ細かい経路設定	短期 (H28着手)
停留所位置の見直し	利用者ニーズに対応した停留所整備	停留所位置の変更や、環境整備(駐輪場併設等)	短・中期

◆ソフト整備

手法	実施方針	具体のメニュー	時期
利用者の意見聴取	利用者アンケートの実施	車内でのアンケート等で利用者意見やOD等を調査	短期 (H29着手)
広報・チラシ等による啓発活動	市の広報誌やポスター、チラシの作成	広報誌、ポスター、チラシ、イベント等による啓発活動を実施	短期 (H29着手)



ていーろーど見直しにおける実施方針（案）

目標2：市民・企業、交通事業者、行政の協働による持続可能な仕組みづくり

手法	実施方針	具体のメニュー	時期
料金体系の見直し	対距離、均一料金区間の設定	利用者ニーズに応じた、柔軟な料金体系の設定(対距離、均一区間の併用)	短期 (H28着手)
運賃収入の確保	利用者向上による収入の確保	利用者向上による収入の確保	短期 (H29着手)
財源の確保	広告などによる収入の確保	バス車内広告、停留所広告、ポスター・チラシへの広告掲載により、広告収入を確保	短期 (H29着手)
広域的な運行	周辺市も含めた広域的な運行	近隣市町村と連携し、より広域的なエリアの運行により、利便性の向上を図る	中・長期
民間企業との連携	民間企業が運行している送迎バス等と連携した運行	民間企業が、通勤や送迎用に運行しているバスと連携することにより、更なる利便性の向上を図る	短・中期 (H28着手)



ていーろーど経路見直しにおける方針（案）

ていーろーどの経路見直し方針（案）

◆西武バスとの重複を解消

◆利用者の**移動目的・利用実態に応じた**経路見直し

利用目的：通勤・通学、通院、買い物等、幅広い目的で利用
（市民生活の移動全般を支援）

利用実態：鉄道駅、福祉関係施設、商業施設へのアクセスが多い

※利用者が少ない区間は、減便・経路変更（短縮）、もしくは、車両小型化により利便性を確保しつつ、効率化を図る

公共施設間の接続には、配慮

（鉄道駅間連結、健康福祉センター、やまゆり荘等）